

「治未病」の過去・現在・そしてこれから

蓬治療所 所長 戸ヶ崎 正男

(目的)

治未病(未病を治す)は東洋医学の中で非常に重要な考え方であり、それに基づく治療技術は現在の医療にも十分生かせるものである。

治未病は、病気予防、病気の初期、病気の蔓延防止に関する考え方とその対策の総称であり、それに基づく方法には、鍼灸、按摩、漢方薬等による治療法と日常生活の見直しさらにその改善として食養、導引按蹻等の養生法とがある。

ここでは、病気予防と病気の初期に関する考え方と鍼灸による治療法について述べる。また、生活指導としては養生法の基本である正しい姿勢動作づくりを紹介する。

方法

文献資料と臨床実践により以下のことを調べる。

1. 過去 江戸時代には病気予防と病気の初期をどのように考えどのように対処していたか。
2. 現在 病気予防と病気の初期をいかに捉え、いかに治療するか。また、どのように生活指導をするか。
3. これから 治未病の考え方をいかに広げられるか。

結果・考察

1. 貝原益軒の著した養生訓等の養生書によると、病気でもないのに漢方薬や鍼灸を用いるなど書いてあり、病気予防には衛生状態や日常生活の改善を図ること、さらには食養生、自己按摩等の自力による体質改善法が奨励されていた。

病気になってもすぐに医者にかからないで様子を見ることの重要性や多くの病気は自然治癒によって治ることが多く、藪医者にかかる治る病気も治らないことがあるというとも言われていた。

以上のことから、かつては、病気予防、病気の初期では鍼灸等の治療ではなくて、日常生活の見直しと養生法等が重視されていたことが分かる。

2. 病気予防では体質を改善することが、病気治療においては自己治癒力を引き出すことが最も重要な課題である。鍼灸によってこのことを可能にしたのは、“澤田流の太極療法”と“経絡治療”である。何故なら、これらの治療法は精気の不足を補い、陰陽の失調(身体のアンバランス)を調整(治療)する方法だからである。

からだの精気の不足(弱点)から身体に歪みが生じ、時間の経過で症状はさらに広がり(本標)、全身にアンバランス(瞬時に起こることもある)を生じるという考え方、及びこれに対する治療原則を有しているということは東洋医学の根幹である。

本標の考え方から、過去の怪我、事故、手術後、大病後の不完全治癒部及びその関連部位(弱点)に対する治療は本に基づく治療(本治)の1つであり、体質改善となる。身体

の上下、左右、前後のアンバランス状態(歪み、症状)をツボの虚实で捉え、それを調整(治療)することも同様である。

また、症状間の先後を捉えて先に現れた症状と関連する部位から治療することによって自己治癒力を引き出すことも本治の1つである。その結果、病気予防になり、病気の初期では患部の治療をしなくても治ってしまうことも多いのである。これらの治療システムには以上のような重要な考え方や治療原則が内包されているにもかかわらず、形式を重んずるあまり、このような本質が伝わり難くなってしまった。

私はこれらの考え方を生かした治療法を作ったが、この治療法をこの場で紹介する。また姿勢動作の改善法を述べる。

3. 鍼灸による治未病の本質は、からだの弱点(本)を治し、身体のアンバランスを整えることにあるから、手術前の体調維持、術後や大病後の体力回復にも効果がある。また、がん末期のターミナルケアや老化予防に対しても一定の効果がある。今後はこの方面で鍼灸治療の発展を目指す必要がある。

結語

現在の日本の医学は近代医学を基本としているが、病巣が明らかな局所の病気や病気の原因が細菌等の外因によるものであれば、今後もこの医学は発展を続けるであろう。しかし、体質改善、病気の初期、病因が複数の病気、病巣が特定できなくて多くの症状が複雑に絡み合っているような病気等では苦慮している。このような病気や術前術後、ターミナルケア、老化予防等の対策は今後とも重要であるが、伝統医学はこの方面で現代医療に貢献できるものとする。

<シンポジスト>

■戸ヶ崎 正男 (とがさき まさお)

略歴



- 1952年 埼玉に生まれる。
- 1976年 東京理科大学薬学部卒業。薬学部在学中、東洋医学を長沢元夫氏から学ぶ。
- 1979年 東洋鍼灸専門学校卒業。鍼灸学校在学中から10数年にわたり、鍼灸と漢方を石野信安氏から実地指導を受ける。
- 1982年 蓬治療所開所
- 1988年 東洋鍼灸専門学校講師
- 1989年 長江会多聞内神道の太極拳を学び、現在、大師兄6段
- 現在、蓬治療所所長として臨床を続ける傍ら、東洋鍼灸専門学校講師として実技指導を行う。

